

10代をひとりにしない デ ィ ー ピ ー
認定NPO法人 D×P

若者支援の最前線
企業とNPOの新しい関係



団体概要



- 団体名：認定NPO法人D×P（ディーピー）
 - 設立：2012年6月27日
 - 認定NPO法人格の取得：2015年6月8日
 - スタッフ数 43人(アルバイトスタッフ含む)
 - ボランティア数 約830人
 - 月額寄付者数 3,531人
- (財務規模 2.8億円 9割を寄付で運営)**

※人数は2025年8月18日時点

役員/アドバイザー



理事長
今井紀明



理事
村中直人
(一般社団法人子ども・青少年育成支援協会
共同代表)



理事
入谷佐知
(D×P ディレクター)



監事
毛受芳高
(一般社団法人アスパシ
教育基金 代表理事)



アドバイザー
辻由起子
(社会福祉士/
こども家庭庁参与)



顧問社労士
和田紘子
(大原社会保険労務士
法人 代表)



顧問弁護士
高橋健
(弁護士法人 伏見総合
法律事務所)



アドバイザー
田中宝紀
(特定非営利活動法人青
少年自立援助センター
定住外国人支援事業部
事業責任者)



アドバイザー
浅見清夏
(ハウスバード株式会社
代表取締役)



アドバイザー
東 信吾
(ソーシャルビジネス
バンク 代表理事
東京コミュニティー財団 理事
千本財団 理事
EYストラテジー・アンド・コン
サルティングシニアフェロー)



アドバイザー
渡邊 淳
(公認会計士渡邊淳事務所 代表)

多くの法人様と社会課題の解決に取り組んでいます



●法人サポーター/ご助成元（2024年度より一部ご紹介）



FIRST DOMINO株式会社



株式会社PoliPoli



マツダ株式会社



株式会社リツアンSTC



GET IT



一般財団法人村上財団



一般社団法人fanable



株式会社土屋



高橋商会株式会社



株式会社いすず質店



スパイスファクトリー株式会社



株式会社フェリシモ

Vision

D×Pが目指す社会

ひとりひとりの若者が
自分の未来に
希望を持てる社会

Mission

D×Pが成すこと

ユース世代に、
セーフティネットと機会を

D×Pが取り組む社会課題とは？



ユース世代の孤立

不登校・中退・家庭内不和・経済的困難
いじめ・虐待・進路未定・無業などによって、
いくつかの安心できる場や所属先を
失ったときに起こります。

特に日本では若年層に対する予算を割くことが
難しく、対応が後手になりやすい分野です。



日本の若者を取り巻くデータ

不登校の小中高生が41万5,252人※1

児童虐待相談件数が22万5,509件※2

小中高生の自死者数が527人※3

すべて過去最多

※1 文部科学省 令和5年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果より

※2 こども家庭庁 令和5年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数より

※3 厚生労働省 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等(令和7年1月29日)より

事業の全体像 -孤立を解決するために-



セーフティネット事業



ユキサキチャット

若者の一歩をサポートするLINE相談



食糧支援と現金給付

厳しい状況の若者の生活を支える



大阪ミナミのユースセンター

繁華街(グリ下)で過ごす若者が安心して過ごせる居場所

機会創出事業



パソコン給付プロジェクト

パソコンで将来の選択肢をひろげる



ワールドチャレンジ

世界を見る経験を届けるプロジェクト



仕事体験ツアー

働く具体的なイメージが持てる仕事体験

オンライン相談の現場から



「バイト代を親にとられています」

「所持金が5,000円しかありません」

「ガスを止められました」

「節約のため、ほとんどごはんを食べていません」

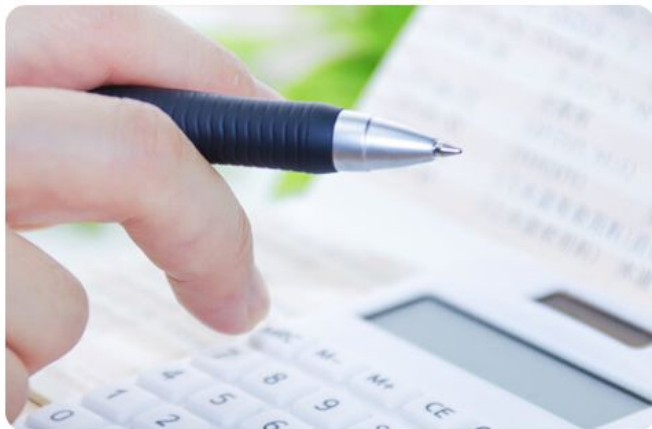
ユキサキチャットの概要

- 「ユキサキチャット」とは、親や周囲を頼れない
全国の13～25歳までの若者に向けたオンライン相談窓口
- 食糧支援・現金給付を組み合わせ関係性を構築し、
ひとりひとりに応じたサポートの提案を行う
- 登録者は18,500人以上（2025年8月時点）
- 専門性を持ったスタッフが「否定せず関わる」ことを大切に若者と関わる
- 一時的ではなく、長期的なサポートを届ける
- ほぼ100%の返信

親に頼れない若者に、現金給付と食糧支援を実施



現金給付



給付の目的は、生活費、家賃、学費など。ライフラインの滞納の解消・引越し・医療費など一度に大きな出費がある場合は緊急支援パックで8万円を給付します。

食糧支援



約30食をすぐに届けます。届ける食品は、パスタやパスタソース、レトルトのカレー、缶詰、お米など。食糧支援を実施する相談者の多くは日用品も我慢していることが多いため、生理用品、ボディークリームなど必要なものがないかを選択式のフォームで尋ね、回答があったものを一緒にお届けします。

若者ひとりひとりに合わせたカスタマイズ



ひとりひとりの状況に合わせてカスタマイズした食糧支援の例を紹介します。

基本セット



お米やパスタ、温めるだけで食べられるレトルト食品、1日に必要な栄養素を補う完全栄養食など。手軽さと栄養を考慮した基本のセットです。

療養セット



調理の手間が必要ないものをメインにゼリー、飲み物などを多めにして発送します。コロナ罹患中でも食べやすいことを念頭に置いたセットです。

お湯のみセット



お湯だけで調理できるレトルト食品を中心にしたセットです。電子レンジや炊飯器等の調理器具を持っていない方へ送ります。

ガス・電気が止められている時セット



シリアルや常温で食べられるおかゆ、スープなどを中心にしたセットです。ガスや電気を止められている方へ送ります。

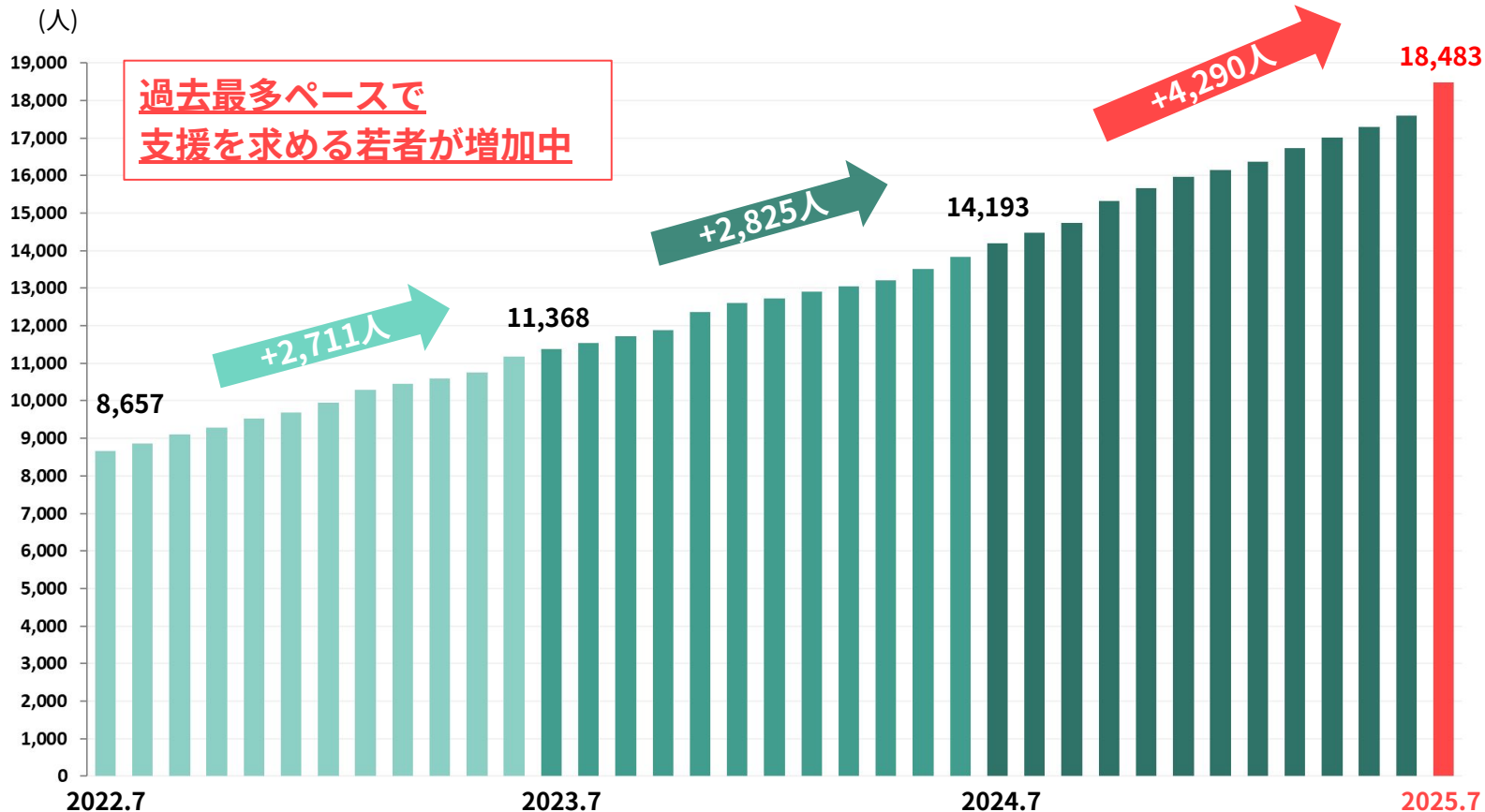


ユキサキチャット登録者数

18,547人

5年間で26倍に増加

ユキサキチャットの登録者数推移

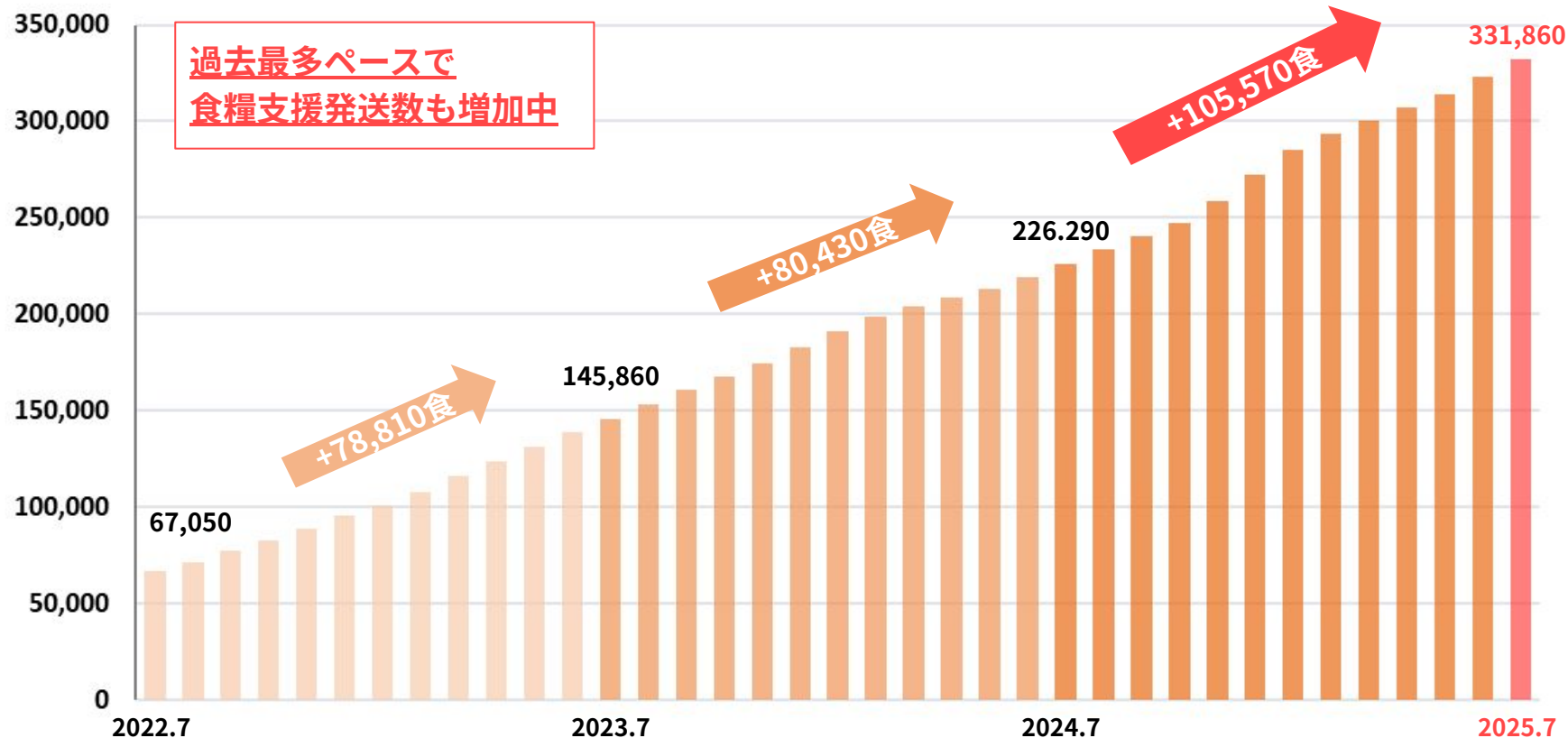


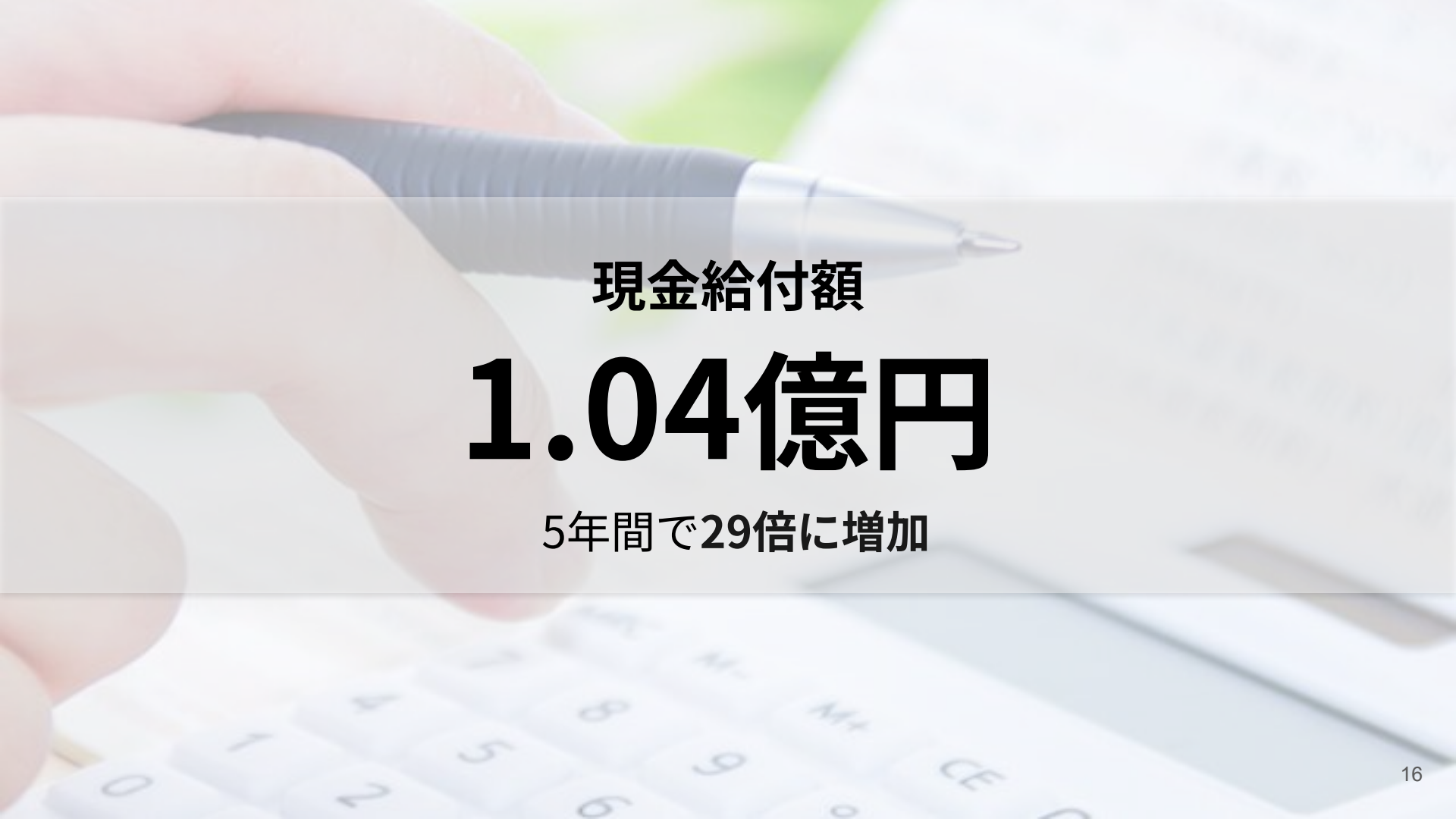
A man in a dark blue shirt is standing in a warehouse or storage room, looking down at a small box he is holding. He is surrounded by numerous cardboard boxes stacked on shelves and on the floor. Some boxes have Amazon logos. The room is filled with boxes of various sizes and colors, creating a sense of a large inventory. The lighting is bright, and the overall atmosphere is one of organized chaos.

食糧支援数
331,260食

5年間で67倍に増加

食糧支援の発送食数推移



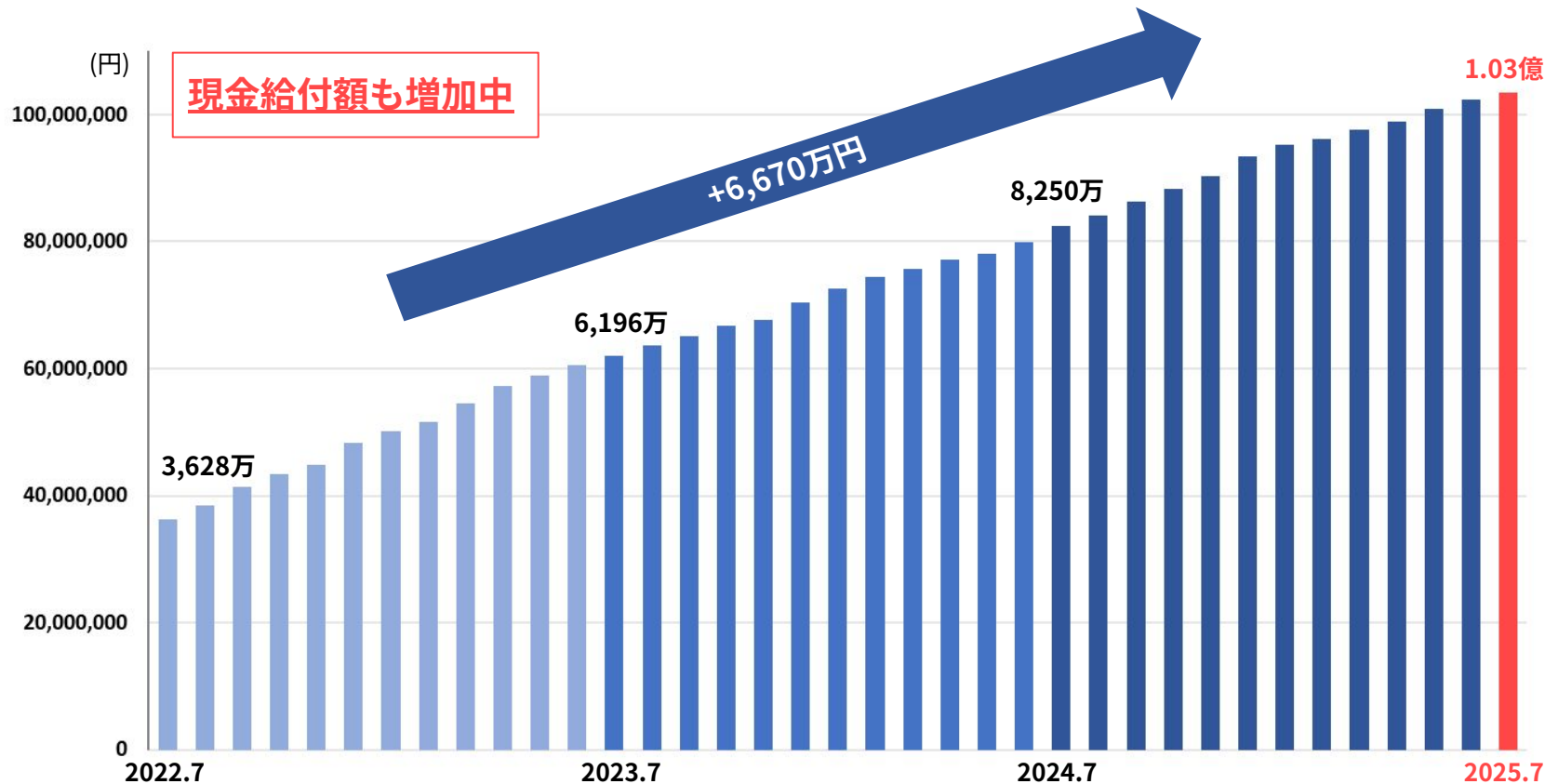
A hand holding a black pen is positioned over a calculator. The calculator is white with black buttons and a display screen. The background is a blurred green and white, suggesting an office or financial setting. The text is overlaid on the image.

現金給付額

1.04億円

5年間で29倍に増加

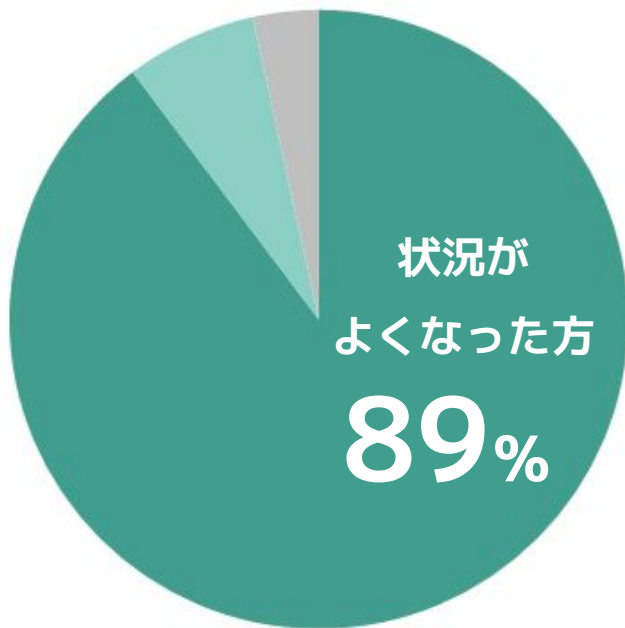
現金給付額の推移



給付の効果(給付終了後アンケートより)



約9割の方が、食糧と現金を合わせた給付支援を通して、生活状況がよくなったと回答



- ・よくなった：205名
- ・すこしよくなった：226名
- ・あまり変わらない：39名
- ・すこししんどくなった：6名
- ・しんどくなった：7名

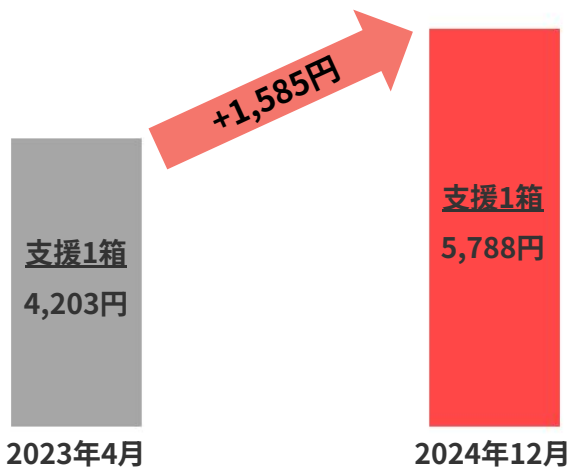
続く食品価格の高騰、支援現場に与える影響



近年の物価上昇により、食糧支援のコストが急激に増加しています。2025年も食品価格の上昇が続く見込みであり、支援の維持には多くの協力が必要です。

食糧支援購入額が過去最高に

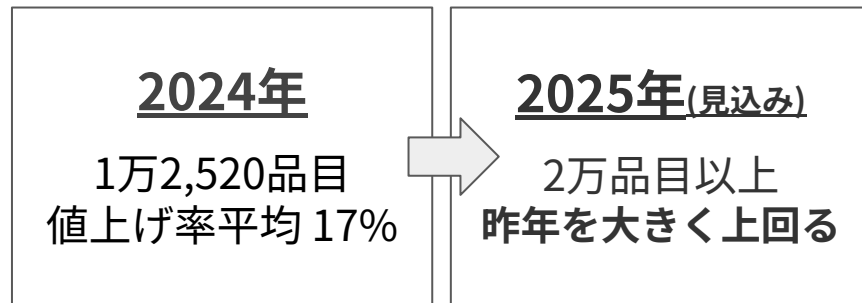
物価上昇により約2年で38%の増加



2025年も続く、食品価格の上昇

値上げ品目数 推移

(7月31日時点)

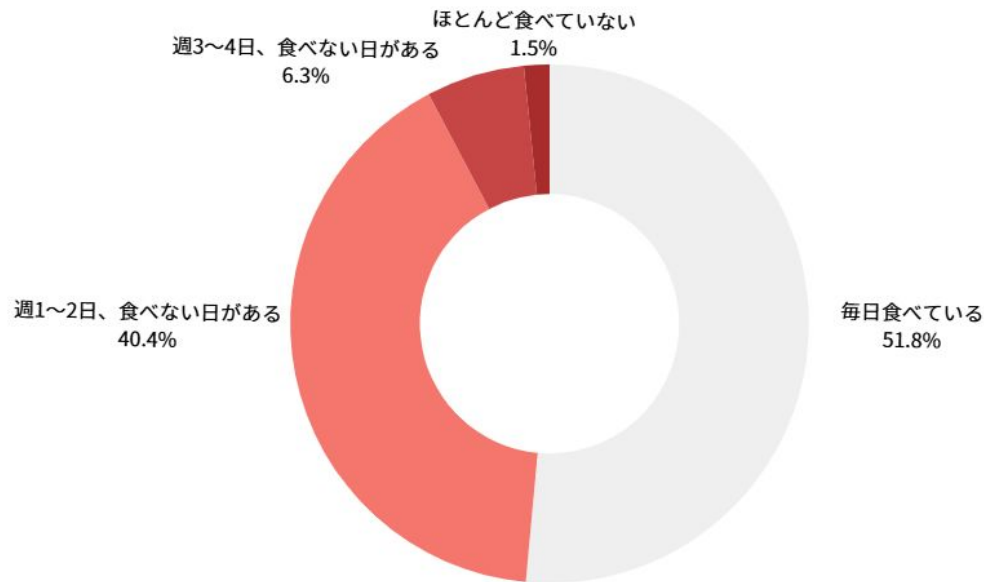


※帝国データバンク「食品主要 195 社」価格改定動向調査 — 2025 年 8月

約2人に1人の若者がごはんを食べない日がある



食糧支援を希望する若者に、「何も食べない日は週に何日ありますか？」と質問したところ、約2人のうち1人（48.2%）が「食べない日がある」と回答。毎日ごはんを食べることが、叶わない状況の若者がいます。



- 毎日食べている：1,261人
- 週1〜2日、食べない日がある：1,000人
- 週3〜4日、食べない日がある：150人
- ほとんど食べていない：39人

若者の居場所 大阪ミナミの現場から



グリ下、孤立する若者が集まる大阪の繁華街



大阪有数の繁華街であるミナミのエリアには、虐待などを背景に家庭に居場所がなく孤立する若者がSNSを介してつながり集まります。

道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもとを「グリ下」と呼び、若者が集まり自然に生まれた居場所となっています。東京は「トー横」名古屋「ドン横」福岡「警固公園」など全国の繁華街に、類似の居場所が存在しています。

大阪ミナミ「グリ下」・東京「トー横」、肩寄せる若者…「家にいたくない」SNSで集う

2021/11/29 21:19

新型コロナ

この記事をストックする



SNS上で「グリ下」と呼ばれる場所に、互いに見知らぬ少年少女が集まる現象が起きている。大阪・道頓堀の観光名所であるグリコの看板のたもとだ。新型コロナウイルス禍で、飲食店や商業施設が時短営業や休業を余儀なくされていた今年の夏頃から、若者たちの「居場所」となっている。一方、未成年の飲酒やけんかなど、トラブルにつながるケースもあり、大阪府警は見回りの強化などに乗り出している。(中西千尋)

▶ 子どものコロナ重症例「多臓器炎症」の実態調査へ…全国2000超の施設対象



▲読売新聞 2021年11月29日記事



「グリ下」に集まる若者たち 違法行為や性被害など危険な一方…「ここが居場所」と複雑な思いも

▲関西テレビ特集 2022年01月07日放送

2022年8月、グリ下の近くにテントを立てました



彼らの日常の延長線上に、気にかけてくれる人との出会いがあり、
繁華街の中で「否定せず関わる」大人と出会える。

そんな場所をつくりたいと2022年から週1回グリ下付近にテントを出し始めました。



フリーカフェの外観です。
若者たちには「ピンクテント」の
呼び方が定着していました。



テントではお弁当や飲み物、持ち帰り
できるごはん、生理用品などを
用意しました。



関西テレビ 報道ランナーにて事業が取
り上げられました

滞在する人が増え、滞在時間が延びていきました



グリ下は、若者が自分たちでつくった居場所です。

私たちから促すのではなく、この場所に来たい人が、来たい時に来てくれたらいい。

そんな思いで活動を始めました。

だんだんと滞在する人が増え、滞在時間が延びたりする中で、

「ちょっと話を聞いて」という言葉から相談につながる人が増えていきました。



生活の立て直しに向けて一緒に動きました



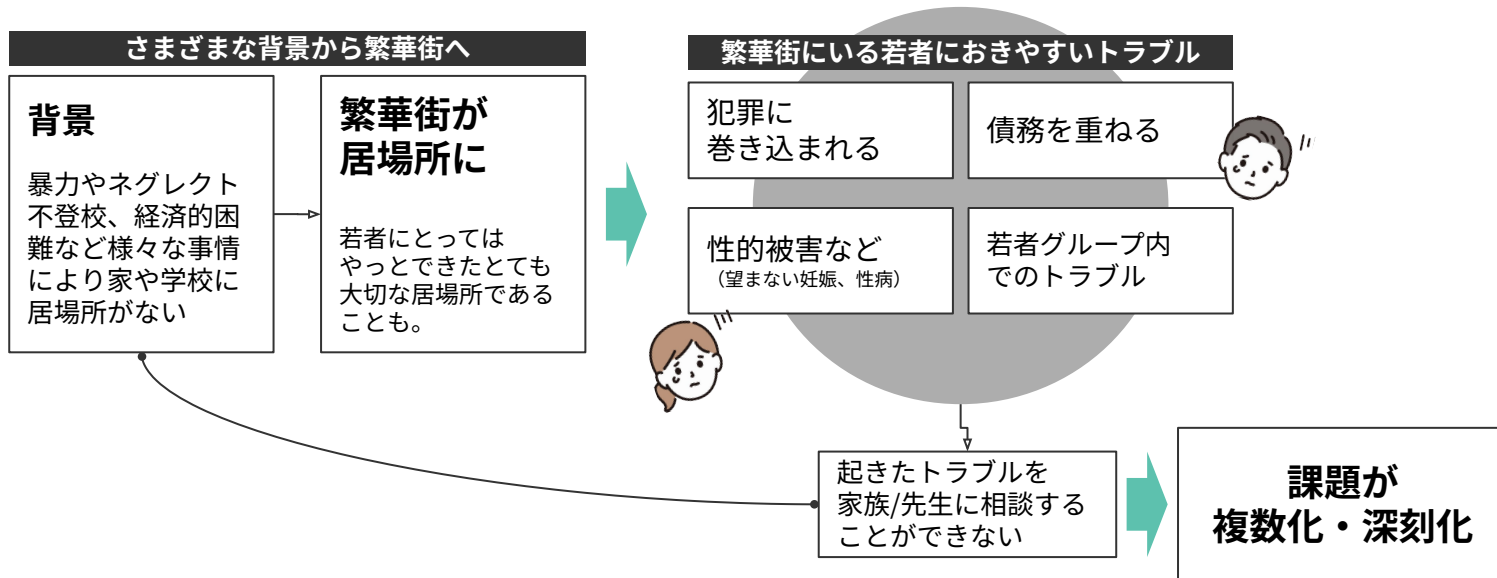
集まる若者は、住居を持っていなかったり、金銭的にも困っている状況の子たちが多いです。そして本人が困難を抱えていることや、しんどい状況であることに気づけていなかったり、気づかないふりをして耐えている人もいます。

私たちは半年以上テントを出し、そこで関係性をつくり、病院へ一緒に行ったり、生活の立て直しや仕事の相談などに乗ったり、年齢に応じた関わりをしてきました。



繁華街の若者を取り巻く環境・背景

繁華街に集まる若者は虐待や経済困難などの背景があり、繁華街は居場所になっています。これまでの大人との関わりを通して傷つき、不信感を持っているため、福祉的な支援や大人に対してあきらめにも近い気持ちを抱いています。そして、犯罪などのさまざまなトラブルにも遭遇しています。トラブルに巻き込まれ、誰にも相談することができず、より孤立していく若者がいます。



2023年6月スタート：繁華街のユースセンター



ミナミのユース世代を取り巻く課題

背景

暴力やネグレクト
不登校、経済的困
難など様々な事情
により家や学校に
居場所がない

繁華街が 居場所に

若者にとってはやっ
とできたとても大切
な居場所であること
も。

繁華街にいる若者におきやすいトラブル

犯罪に巻き込まれる

債務を重ねる

性的被害など
(望まない妊娠、性病)

若者グループ内での
トラブル

ユースセンターを起点に繁華街にセーフティネットを



ユースセンター
が繁華街での
新しい居場所に

2023年6月開設

エネルギーを
ためられる

自分の意見が
尊重される

自立に向けて一緒
に考えてくれる人
とつながる

繁華街にセーフティネットをつくる

犯罪に巻き込
まれても
相談できる

債務整理のため
外部機関に相談
できる

福祉制度を頼
れる/仕事を探
せる

話し合える/関
係を結び直せ
る

医療機関を頼れる/
回復に向かう

ユースセンターが持つ3つの機能



ミナミのユースセンターで得られるもの

エネルギーを ためられる

(食べる・仮眠できる・相談できる)



おうちで得られるかもしれなかったものをチャージ

- ✓あたたかいごはん
- ✓仮眠（出勤前に仮眠するなど）
- ✓クリスマスなどの季節的な行事やゲーム/音楽など

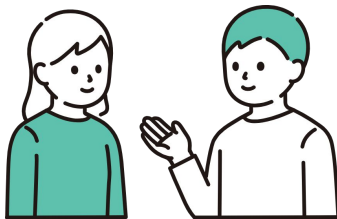
自分の意見が尊重される



「自己決定」の経験を得る/ 本人がもともと持つ力を奪わない関わり

- ✓ユースセンターの運営・備品に対する意見を言える
- ✓自分の意見や声が反映されている実感を持つ
- ✓一緒に企画をつくったり、掲示物をつくる

自立に向けて一緒に 考えてくれる人とつながる



ひとりひとりの望む状態を聞く

- ✓個別相談や同行支援：スタッフと生活について話しあう/一緒に病院や自治体に行き、他の機関とつながる
- ✓助産師や自治体職員など専門家が来訪し相談対応
- ✓仕事体験ツアーなど若者の目標に合わせた機会提供



ユースセンター開所回数 213回

※2023年6月～2025年8月までの実績



ユースセンター利用者数

9,277人

※2023年6月～2025年8月までの実績



食事提供数
7,478食

※2023年6月～2025年8月までの実績

個別面談回数

447回

同行支援回数

465回

※2023年4月～2025年8月までの実績

ユースセンターの非開催日にしていることの例

※本人の安全を守るため・個人情報保護のため、個人が特定されないようによくあるケースを組み合わせ加工しています。



(こんなきれいに進むことは現実にはありませんが…)

STEP1:ユースセンターでの関係性構築→緊急対応

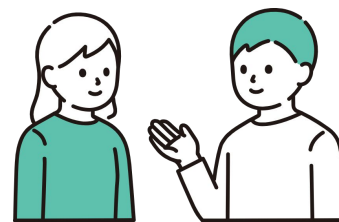
①ユースセンターへ
グリ下でのクチコミで
センターを知り来訪。
ごはんを食べたり、雑
談で関係性を築く



②性関係の緊急対応
緊急避妊の必要性が
あり、インスタのDMで
連絡。連携している産
婦人科へ



③追加面談
生活状況や他の困り事
をヒアリング。経済的
困窮や住居が安定して
いないことを確認



STEP2:生活の安定と心身の健康維持に向けて徐々につなぎ先を増やしていく

④住居支援につなぐ
安定した住居を持てる
ように他機関や保証会
社と連携して住居の確
保をする。



⑤行政支援につなぐ
生活保護や住宅確保支
援金などの既存制度の
申請をスタッフと共に
行う



⑥金銭管理のサポート
支払い方法を確認した
り、必要なお金を計算
したり。もらえる給付
金の申請なども。



⑦医療支援につなぐ
精神疾患や依存症も見
られたことから、医療
機関につなげ通院をう
ながす

大阪市・大阪府との連携/調査も実施し、議論の土台に



大阪市が開催するグリ下の課題に対応するための
府市連携・官民連携の「グリ下会議」に出席し、月1回のペースで会合を重ねています。
また、ユースセンターでグリ下に集まる若者たちにアンケートを実施し、
彼らの状況やニーズを把握しながら、大阪市とともに具体的な支援策を検討しています。

グリ下実務者会議への出席



大阪市が“グリ下”に集う子どもたちへの支援策を検討へ NPO法人が若者らにアンケート実施

大阪

© 2024/09/06 18:15

最新ニュース



大阪市との連携協定締結
(MBSニュース 2024年9月6日)

若者の声を社会に届けていく拠点に



2025年6月4日、大阪市中心区長と市の職員の方々がユースセンターにお越し下さりユースセンターを利用する若者たちと直接対話する機会をつくりました。

若者たちは率直に語り、市の方々も丁寧に耳を傾けてくださいました。

最後はゲームを一緒にするような場面もあり、良い交流となりました。

若者の声を集め、社会に届けていく。ユースセンターは、そのための拠点でもあります。



サポーター企業のご提案



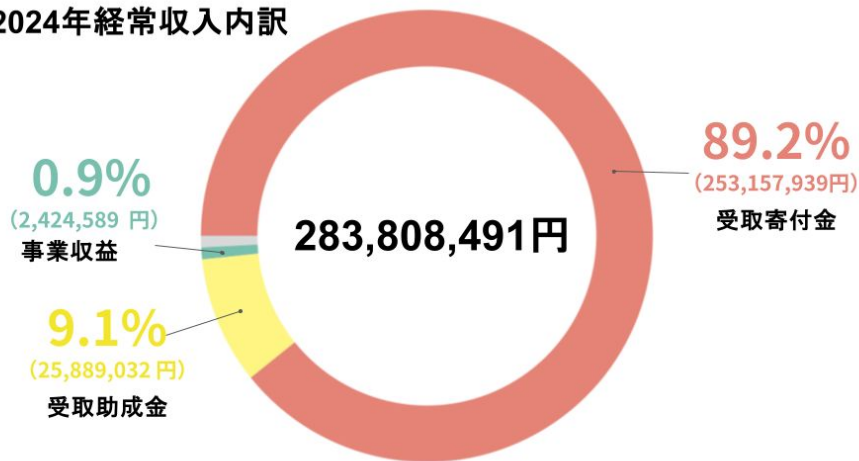
D×Pの活動はご寄付で成り立っています



私たちの活動は取り組みに共感してくださる方々からの寄付で支えられています。

2024年度収入内訳

2024年経常収入内訳



ご寄付で活動する理由

・迅速かつ柔軟な支援活動が可能に

ご寄付はあらかじめ用途を制限されない形でいただくことが大半です。

そのため、目まぐるしく変化する社会情勢の中でユース世代のニーズに合わせたサポートを迅速に行なうことができます。

・長期的に安定した支援活動が可能に

当団体は3,000人を超える月額寄付サポーターに支えられています。月額寄付をいただくことで、長期的な支援計画を組み立てることができ、安定してユース世代をサポートすることができます。

寄付以外の様々な関わり方

寄付金以外にも寄付つき商品やプロボノなどの取り組み方があります。
多様なご寄付の形態（不動産、株式等）にも柔軟に応じさせていただきます。
また、社内講演や対談記事など情報発信も実施しています。

社内講演会



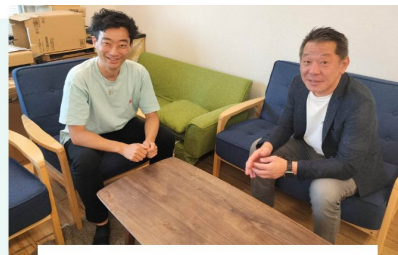
活動内容や若者を取り巻く状況、寄付の使い道など社員のみなさまにご説明します。

商品の売上の一部を寄付



商品の売上の一部が困難な状況にある若者への支援に活用されます。

法人サポーターとの対談記事を公開



DXP × 株式会社リッタンSTCの野中社長×代表今井の対談が実現

対談記事を通じて、皆様の取り組みや想いを共有し、多くの方々にご紹介しています。

活動を支援するサポートプログラムの実施



WEB広告を通した寄付募集の協力など、サポーターさまの専門領域でご協力いただきました。

社内講演・NPO連携の効果

社内講演や活動の連携は、スタッフの育成や採用に効果があり、組織の一体感向上にも寄与します。



Aさん
(A社営業部)

講演を通して視野が広がった

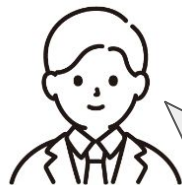
この会社に入ってなかったら、日常の中で特に目を向けることすらできてなかった問題だったと実感して悲しさのような、情けなさのような、反省のようなそんな気持ちになりました。今回の経験を通じて視野が広がり、これからは自分に何ができるのかを考え、また他の人たちにも現状を知ってもらえるような活動の一助になればと思います。



Bさん
(B社管理部)

NPOとの連携に惹かれ入社

就職活動中、私は貧困問題に関心が強く、当社が行っているD×Pとの取り組みにとても惹かれたので新卒入社を決めました。



Cさん
(A社システム部)

講演が社内チームを誇らしく思うきっかけに

正直なところ連携だけでは社会貢献になっているのか疑問に思うこともありましたが、本日のお話を伺って、実際に連携を通して活力をもらった若者がいるという話を聞いて社内チームのことを誇らしく思うとともに、D×Pの被支援者への個別対応支援の選択肢を増やすようないいサポートになっているのかなと思いました。

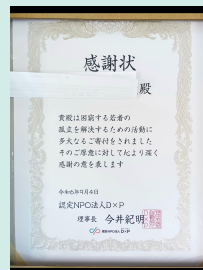
2025年度 サポーター企業のご案内



年間12万円
または
月額1万円のご寄付

限定メールマガジン

活動報告書



年間36万円
または
月額3万円のご寄付

限定メールマガジン

活動報告書

感謝状

活動報告書への
ロゴ掲載

webページへの
ロゴ掲載(小サイズ)

2025年度 サポーター企業のご案内



年間60万円または月額5万円のご寄付

限定メールマガジン

活動報告書

感謝状

活動報告書への
ロゴ掲載

webページへの
ロゴ掲載(大サイズ)

2025年度 サポーター企業のご案内



年間120万円または月額10万円のご寄付

限定メールマガジン

活動報告書

感謝状

活動報告書への
ロゴ掲載

webページへの
ロゴ掲載(大サイズ)

トロフィー贈呈

webお知らせページでの発信

社内講演企画
(無料、希望があれば)

webページへのロゴ掲載(イメージ図)



2025年度サポーター企業のご紹介

大サイズ
(月額5万円～プラン)



A社 ロゴ

A社 社名



B社 ロゴ

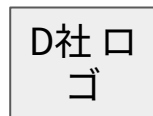
B社 社名



C社 ロゴ

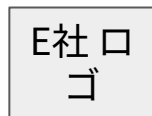
C社 社名

小サイズ
(月額3万円プラン)



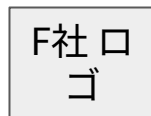
D社 ロ
ゴ

D社 社名



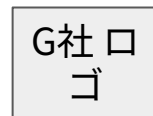
E社 ロ
ゴ

E社 社名



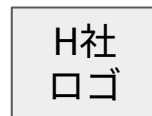
F社 ロ
ゴ

F社 社名



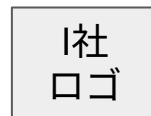
G社 ロ
ゴ

G社 社名



H社
ロゴ

H社 社名



I社
ロゴ

I社 社名

※配置・サイズは現時点でのイメージになります。

食糧支援＋PR：支援を見える形に



「若者の生活を支えたい」という想いを社会に届けませんか？

150万円の寄付で、100箱の食糧支援にロゴを掲載し、発信します。

皆さまの支援活動を可視化し、より多くの人々に伝える機会をつくります。



食糧支援とともに、想いを届けます



100箱の食糧支援を若者のもとへ

※ロゴステッカーの配置・サイズは変更の可能性があります。

クレジットカードで寄付する



[法人名義で寄付する](#)

銀行振込で寄付する

▼三菱UFJ銀行 大阪京橋支店

普通 0072241

特定非営利活動法人DxP

▼楽天銀行 第二営業支店

普通 7079724

特定非営利活動法人DxP



孤立や困窮の中にいる若者にとって、D×Pの活動は「予防線」となる存在です。
けれど、**予防の支援は制度の対象になりづらく、**
私たちのような民間団体が支え続けるには**資金的な限界**があります。

どうかこの取り組みにご協力ください。ご支援・ご拡散、よろしくお願いいたします。